資料 4–1 1993.9.17

CCIRN 報告

後藤滋樹 (SOC WG chair)

1 日時と場所

1993 年 8 月 23 日 (月) および 24 日 (火)、Bodega Bay (サンフランシスコ近郊) にて。

2 出席者

各大陸 (continental) から 7 名という制限があったが、実際にはオブザーバを入れて 26 名が出席した。日本からの参加者は浅野正一郎教授 (NACSIS)、松崎功保氏 (APCCIRN)、後藤滋樹 (JPNIC) である。なお、出席者のリストが報告者の手許にある。

3 審議の模様

3.1 第一日目 (23 日)

1. 形式的には Review of minutes form Brussels Meeting (Feb. 93) を最初に済ませるべきであったが、実際にはヨーロッパ側の出席者の都合により 8 番目の議題になった。内容は特に問題無し。
2. Updates ということで各地の話題が紹介された。最初に北米から NSF solicitation の概略の説明があったが、その結果についてはまだ公表できない由。
3. DOE の ATM の利用計画の紹介。
4. 南米の状況に関する紹介。
5. Regional ＋ Enterprise の 7 つのネットによる COREN という組織の紹介。
6. 欧州における TINA (Bellcoreが主唱したコンソーシアム) の紹介。
7. 欧州における RARE の活動。
8. アジア太平洋からは、APNIC のパイロットの紹介。および日本から JPNIC の活動の概要を紹介。
9. INET'93 の報告。参加者 800 名。プロシーディングが Gopher でアクセスできる。以上が Updates の内容である。
10. Commercial/General Service Providers との関係。特に CCIRN としては、どのような態度を取るべきか。(商用も仲間に入れるか、それはゲストか、あるいは CCIRN 以外に適切な場があるのか、など) 結局 CCIRN としては自らを「Research and Educaton Community のために coordination と provision を行なう委員会」と規定した。具体的には management と policy の議論を行なう場であるという意味である。ここでは com-

mercial provider が R&E Community のためにネットを提供するという形態も想定しているが、次回の CCIRN に commercial provider を招待する見通しは薄い。

11. Global NIC については、IANA がいわば「global NIC」のようなものである。次回の CCIRN で funding の計画などを審議することになる。

3.2 第二日目 (24 日)

1. 午前中は CCIRN と IEPG との合同委員会となった。
2. ロシアおよび中国 (北京) との接続の計画と現状の報告。
3. 合同委員会の席上、IEPG からの「独立宣言」(元来 IEPG の親委員会が CCIRN であった) が出され、了承された。
4. このため、CCIRN では IEPG からの報告を待って議論しようとした GIX の議題 (GIX は一つか複数でも良いのか) が、いささか宙に浮いてしまう形となった。
5. 「独立宣言」を受けて CCIRN では、より policy の議論に重点を置くことを確認。
6. 会合の回数を増やすべきか。議長を一人にするか、現在のように co-chair の体制で良いのか。とりあえず co-chair の体制で進める。
7. CCIRN の権威は各ネットワークに由来するという確認。

4 次回の予定

次回の CCIRN は INET'94 の時期に合せて欧州 (プラハとは限らない) で開くことになった。開催地の詳細は欧州に任せる。

以上